高松市立鶴尾小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

人権尊重の精神を基盤として、自ら考え実行できる
人間性豊かなたくましい子どもを育てる

— 子どもに寄り添い 子どもを大事にする 「子どもファーストの教育校」 —

【本校の課題】

- 運動習慣が身についている児童が少なく、基礎体力が全体的に低い傾向にある。
- スポーツテストの結果では、ほとんどの種目で全国平均よりも得点が下回っている。
- 様々な課題に対して「できるようになりたい」「やってみたい」という意欲が低い。

【現状】

朝の時間・休み時間に元気よく運動場で遊んでいる姿が見られる。しかし、遊ぶメンバーや学年が限られていて、遊ぶ内容も決まった遊びしかない、という現状がある。また、ドッジボールなどの投力を高める運動や運動量の多い遊びは避ける傾向が見られる。体育の授業においては、反復して行うことが苦手で、持久走などは、その時の気持ちによって結果が左右されることが多い。また、難しい技や現状できない課題に対して「できるようになりたい」という意欲をもてない児童の割合が多いように感じる。運動習慣の確立や運動量の多い運動に慣れていくこと、体育の授業内で成功体験を積み重ねて、自己効力感を感じられるようにすることが体力向上につながると考えられる。

【取組み】

陸上練習の実施（5・6年）

陸上競技の練習だけでなく、体の動かし方に工夫が必要な運動や、ゲーム性を高めて楽しくできる運動を行う。そうすることで、運動習慣の確立につなげる。

マラソンの実施

持久力向上のために、冬季にマラソンを行う。リクエストされた音楽を聞きながら走ることで、走るのが苦手な児童も楽しみながら活動に参加できる。

ジャンピングタイムの実施

縄とび運動を通して、全身持久力や瞬発力、リズム感を身に付けることができる。そうすることで、他の運動にも必要な力を身に付けさせる。

用具を活用した投力の育成

休み時間や体育の時間を通して、的あてや大谷グローブの活用などを通して、投げる運動の楽しさを味わったり、技能身に付けさせたりする。

【目標】

- 体育の授業を充実させ、運動の楽しさを感じ、成功体験を得られるようにする。
- 昼休みに多くの学年の児童が運動場に出てくるような遊びを工夫するなどして、様々な運動に意欲的に取り組むようにする。
- 業間縄跳び・業間マラソンを通して、最後までやりぬく心を育て、持久力を高める。
- 様々な運動に積極的に取り組む態度を育て、運動習慣を確立する。